産学連携事業

養鶏場のふんの処理装置を考案

―淡路市商工会―

淡路市商工会は、今年度の県連合会産学連携事業において、神戸山手大学と提携し、会員企業が抱える環境問題について取り組んだ。

同商工会会員企業の養鶏場では、鶏ふん処理過程で出るアンモニア臭気について、その対応に悩まされていた。もちろん独自の臭気対策は行っていたが、高額な設備費用がネックであり、その打開策として同大学の井上准教授(環境文化ゼミ)のグループとともに、処理装置の研究開発に取り組んだ。

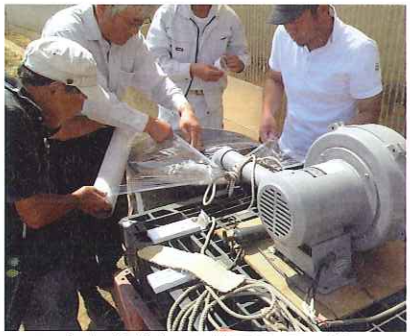
手法は、アンモニア臭の発生元である鶏ふんの発酵処理施設に送風機を用いて臭気を集め、それをドラム缶に泡立てながら流し込み、薄い塩酸を入れて中和溶解を行うものである。

現場に設備を設置したところ、臭いがほとんどなくなっただけではなく、アンモニアが塩化アンモニウムに変化し、成分が液体肥料としても有用性が高いという付随的な恩恵も被った。

本事業は、全国の養鶏場でも珍しい先進的事例となり、平成二十三年十二月三日(土)に同大学で開催された「中小企業環境経営セミナー」でも発表し、マスコミにも大きくとりあげられた。

同企業では、何よりも企業の社会的責任(CSR)を果たせたことによって、今後は今まで調和しづらかった地域や住民との交流の機会を多く設け、養鶏場についての理解を深めていただくとともに、地元貢献型の環境経営を推進したいとのことである。

また、本事業を通じて同大学の学生が同企業に採用が内定したことも大きな成果であった。



▲臭気対策処理装置設置の様子

淡路島オニオンキッチン新商品を展開

―南あわじ市商工会―

◀▼オニオンチップス

南あわじ市商工会（志智宣夫会長）の淡路島オニオンキッチンは、オニオンチップス（平成二十二年経済産業大臣賞受賞）の新味をはじめ、島の特産品を最大限に生かした新商品を開発、話題となっている。

また、五種類に味付けした玉ねぎと淡路ビーフがマッチした島の恵がたっぷりの「あわじ島バーガー」は、十月のとっとりバーガーフェスタvol・3～全国ご当地バーガーグランプリ～に出展、見事三位に入賞した。

淡路島バーガーは道の駅うずしおで販売、大好評である。

淡路島オニオンキッチン新商品

① オニオンチップス
（カレー味・ブラックペッパー味）
② 淡路島ポーク
（ウィンナー・ロースハム・ベーコン）
③ オニオンスープ
（コンソメ・ポタージュ・スピナッチ）
④ 淡路島ラスク
（玉ねぎ・ナルトみかん・蜂蜜）
⑤ ブルーベリーコンフィチュール
⑥ 淡路島はちみつ

★淡路島オニオンキッチン
http://www.m-awaji.jp/onion/

神河ミルキーウェイ「冬の蛍」第十七回わっくわくぶらり市

―神河町商工会―

神河町商工会(堀口勝久会長)は、十二月三日(土)、寺前駅前商店街において、神河ミルキーウェイ「冬の蛍」第十七回わっくわくぶらり市を開催した。

一昨年から「賑わい創出事業」との合同開催となり、町行政・観光協会・商店街が一体となって集客事業に取り組んでいる。駅前商店街のイルミネーションの数も更に増え、賑わいを演出している。

▲暖かなイルミネーション

当日は悪天候の為、地元祭事「とんぼ道中」（男性が女装した花嫁道中）が中止となったが、鼓笛やダンス太鼓演奏、ファイヤーパフォーマンス、鴨レースなどで大いに盛り上がった。

姫路食博出品の「定釜鍋（じょうがまなべ）」の振舞いや宮城県物産販売を行い、東日本震災復興支援等の募金活動を実施した。

午後から夜にかけてのイベントも定着し、多くの来場者があり、地域経済に活気を生み出すことが出来た。

兵庫県観光プロモーション団が三田市をPR

～中華人民共和国 広東省広州市～

―三田市商工会―

三田市商工会(松原正武会長)は、東日本大震災及び原発事故による風評被害対策として、風評の払拭ならびに三田市を含む兵庫県の魅力をPRするため、県下九市町の観光関連事業者等で構成する「ひょうご観光プロモーション団」(総勢百三十五人、団長：井戸県知事)に参加し、十一月四日～七日にかけて兵庫県友好州省である広東省の広州市を訪問した。

▲松原会長による現地旅行社へのプレゼン

広州市では、現地訪日旅行エージェントとの商談会、大型商業施設での観光プロモーション、街頭での兵庫県観光キャンペーンなどを行い、現地テレビ局や新聞社に取り上げられるなど、広州市民の関心は非常に高く、直接広州の人達に三田市を含む兵庫県が安全で魅力ある観光地であることのPRができた。